

サン・マルティン将軍胸像への献花式典

伊藤 誠

皆さん、三浦半島 横須賀の高台にある防衛大学校の校庭に南米南部3カ国アルゼンチン・チリ・ペルーの独立の父であるサン・マルティン将軍の胸像が鎮座していることをご存じでしょうか。

去る2月27日午後、その胸像への献花式典が挙行されました。防衛大学校の久保校長をはじめ三カ国の在日各大使閣下や駐在武官、南米地域研究者などが参集、当協会からは永井理事長、宍戸常務理事と筆者が臨席しました。

この胸像は戦後初代の駐日アルゼンチン大使キロス氏が離任に際し、日本国民への永遠の友好の証として彫刻家小島正男氏に依頼し作成、寄贈したものです。同大使はこの胸像を東京都へ寄贈する意向であったが都には外国偉人の銅像を受入れた前例がないと断られていたところ、当協会の初代会長で戦前領事と公使として二度に亘り亜国で駐在し戦後、神奈川県知事として連続5期知事を務めた内山岩太郎氏が尽力し1956年3月、今から70年前に防衛大学校へ寄贈設置されたものです。

その後当協会からの寄贈品として1959年に台座が付き、1961年には玉伊吹の生け垣が像の周りに添えられました。すなわち、サンマルティン将軍胸像の建立は、キロス大使、防衛大学校そして日本アルゼンチン協会の三者の協力が有ってこそ成し遂げられたものであります。

テンポーネ大使閣下と久保校長ご両名のスピーチで日本アルゼンチン協会の台座と生け垣の寄贈に対する丁重な謝辞が有り、協会の先人の貢献を確りご認識いただいております。大変嬉しく感じました。

これまでは、胸像への献花式典はサンマルティン将軍の命日である8月17日前後に行われてきましたが、今後は生誕日2月25日前後に開催していきたいとの久保校長のお話でした。



右から：

リカルド・ロハス

チリ大使

久保 文明

防衛大学校長

エドゥワルド・テンポーネ

アルゼンチン大使

マヌエル・ゴンザレス

ペルー臨時代理大使



右から：

宍戸 和郎 常務理事

永井 慎也 理事長

久保 文明 防衛大学校長

伊藤 誠 常務理事

(いとう まこと：当協会常務理事)